

「神葬祭」について

日本人の先祖祭祀は、元来神式(神道・しんとう)にて執り行われて来ました。神道における先祖祭祀の考え方は、人が死去(帰幽・きゆう)するとその御霊は霊霊(れいじ)に遷霊(せんれい・御霊を移すこと)され、各家々の御先祖の霊社(御霊舎・みたまや)に祀られ、一家の守護神となり、日夜子孫を見守り、子孫の繁栄と幸福をもたらすとされています。この神道による葬儀を神葬祭(しんそうさい)といい、神葬祭は帰幽報告の儀にはじまり、枕直し、納棺、通夜祭並に遷霊祭、発柩祭、葬場祭、火葬祭、埋葬祭、帰家祭をもって終了します。

《神葬祭の流れ》一例

| | |
|---------------------------|--|
| きゆうほうこくのぎ 帰幽奉告の儀 | 故人が亡くなった旨を氏神様、神棚に奉告し、神棚の正面に白い紙を貼り、五十日祭が終了するまで拝礼をします。 |
| まくなおしのぎ 枕直しの儀 | 遺体に白木綿の小袖を着せ、首位を向かって右方向に安置し、守り刀を遺体の枕もとに置きます。お供えは「案」とよぶ白木の八足の上に三方を置き、それぞれの容器に米・酒・塩・水・故人が好んだ品々又日常の食膳をのせ、榊・ろうそくを飾ります。お供えの後、遺族・近親者・親しい人達が、故人の安らかな眠りを祈ります。 |
| のうかんのぎ 納棺の儀 | 遺体を棺(ひつぎ)に納め、棺に蓋をして白布でおおいます。棺を通夜を行う部屋に移し、祭壇の中央に安置します。祭壇に、遺影と供物を供え拝礼します。 |
| つやさい・せんれいさい 通夜祭・遷霊祭 | 通夜祭は葬場祭の前夜に、夜を通して行われます。通夜祭は死亡後、葬儀を行うまでの間、遺体のあるところで生前同様に礼を尽くし手厚く行う儀式です。遷霊祭では、亡くなられた方の御霊を霊霊といわれる白木の「みしるし」に遷します。遷霊には霊号(おくり名)が記され、しばらくの間は仮御霊舎に安置されます。また通夜祭からは神職が祭祀を司り、悲しみや慕う気持ちを込めた「祭詞」を奏上し、遺族の方は「玉串」を捧げてお参りします。玉串拝礼は、五十日祭まで忍手(音をたてない)で行います。 |
| はつきゆうさい 発柩祭 | 葬列を組み葬場に向かう際に柩前(きゆうぜん)に奉告する祭儀。事情により葬場祭終了後火葬場に葬送することを柩前に奉告する場合があります。 |
| そうじょうさい 葬場祭 | 故人に対し最後の訣別を告げる最大の重儀で、神職による斎主以下祭員により執り行われます。また弔辞の奉呈、弔電の奉読などが行われます。 |
| かそうさい 火葬祭 | 遺体を火葬に付する際に行われる祭儀。 |
| まいそうさい 埋葬祭 | 墓所を祓い清め遺骨を埋葬した後に行われる祭儀。事情により当日埋葬できない場合は日を改めて行い、できるだけ五十日祭までに納骨します。 |
| きかさい 帰家祭 | 火葬場または墓所から戻り、塩・手水で祓い清めて霊前に葬儀が滞り無く終了したことを奉告します。 |
| れいぜんさい 霊前祭 | 五日祭・十日祭・二十日祭・三十日祭・四十日祭。帰幽の日から五十日間、忌明けまで行われます。 |
| ごじゅうにちさい・ごうさい 五十日祭・合祀祭 | 五十日祭は、今日で喪が明けけることを知らせる忌明けの祭です。合祀祭では、仮御霊舎の霊霊を祖霊舎にお遷しします。五十日祭での清祓の儀の後、神棚正面の白い紙をはずし平常の生活に戻ります。 |
| みたままつり 祖霊祭 | 神葬祭が終わると節目毎に御霊の遺徳を偲び、一年祭・三年祭・五年祭・十年祭・二十年祭・三十年祭・四十年祭・五十年祭と式年祭を執り行います。また、この他に毎年の命日祭、春季祖霊祭(春分の日)、秋季祖霊祭(秋分の日)、毎月一日・十五日に月次祭、朝夕日供祭を行います。 |

※我国には「日の本に生まれ出でにし益人は神より出でて神に入るなり」という詠歌が伝わっています。これは、我国では古来より、生死は神のはからいによるものといい、神の世界から生まれ、神の世界へ帰ると伝えられています。神の世界へ帰幽した「御霊」は、子孫の祭祀を受け、国家と子孫を守護するためにお働きになるのです。我々は、ご先祖の魂を受け継ぎ、祭りや伝統を絶やすことなく、怠ることなく継承し、我国固有の先祖祭祀を真心込めてご奉仕致します。

神葬祭のお申し込み・お問い合わせ お近くの神社の神主さんか、砥鹿神社まで、お気軽にお電話下さい。

砥鹿神社社務所 電話0533-93-2001